

## 過去最大！1000社が出展【30%増】

7月のブックフェアでは何か起きそうだ。現在出版業界では「電子書籍」、「著作権」、「流通」など様々なテーマに大きな関心が寄せられているが、TIBFへもこうしたテーマが色濃く反映され、業界関係者も読者も見逃せない4日間になるだろう。

### ■ どうなる電子書籍は？ 気になるその動向

今年なんといっても注目は、電子書籍。その技術・サービスを一堂に集めた、『デジタルパブリッシングフェア』と同セミナーの内容が業界中の関心を集めている。グーグル、セルシス、ボイジャー、パピレス、大日本印刷、凸版印刷をはじめ有力企業90社が出展、新たなマーケットの覇権をめぐって火花をちらす。また新設の“電子書籍端末ゾーン”にはNEC、富士通、方正（中国）をはじめ、有力企業が最新端末を提案、もちろん多数の企業がiPhone、iPadやキンドル向けのアプリケーションやソリューションを展示する見通しである。グーテンベルクから550年、この4日間を境に新たな出版の形が見えてくることになるのかもしれない。

### ■ 『本』をめぐる様々な商売が

TIBFには毎年4,000名を超える書店員が、新刊本などの売れる本を求めて全国から来場、受発注が活発に行われている。例えば2009年7月のブックフェアでは、みすず書房が『フロム・ヘル』（同年10月発売）を発表、書店や新聞、読者にアピールしたことがきっかけとなり、5刷1万2000部という大きな売れ行きにつながっている。今年も書店・マスコミの皆様にとって未来のベストセラー発掘の場になるだろう。また、世界中の出版社との著作権取引も年々活発になっている。TIBFは、優れた日本のコンテンツが世界に、世界の名作が日本に広がるターミナルとなる。

### ■ 大作家も続々と登場 佐野眞一、姜尚中、浅田次郎、阿刀田高・・・

佐野眞一氏の基調講演を皮切りに、今年も充実の32講座が用意されている。「なぜだ?!売れない文庫フェア」で有名なくすみ書房や、大ベストセラーを連発してきたサンマーク出版 植木社長などの有力業界関係者の講演や、グーグル村上氏 - ボイジャー萩野社長が電子書籍を語るセッションなど聞き逃さないセッションが目白押しだ。こうしたセミナーも今後の業界展開を読む上で大いに役立つことだろう。毎年、早期に満席になるセッションもあり、事務局では、確実に聴講いただくためにも、至急聴講申し込みをと呼びかけている。



【東京国際ブックフェアのセミナー詳細・最新情報は <http://www.bookfair.jp/>】

【お問合せ先】TIBF・DP事務局 リード エグジビション ジャパン株式会社 広報担当：小玉香織  
TEL：03-3349-8507 FAX：03-3349-8523 E-mail：kodamak@reedexpo.co.jp